

プレスリリース

2013年8月15日
国境なき医師団 (MSF)

ソマリア: 人道援助の侵害と悪用により、22年におよぶ医療援助活動に終止符

国境なき医師団 (MSF) は、1991 年以来ソマリアで継続的に展開してきたすべての活動を終了し撤退すると発表した。武装集団および地元指導者層が、人道援助従事者の殺害、襲撃、拉致を支持、許容、容認する姿勢を強め、MSF 職員が激しい攻撃の対象となっていることが理由だ。

MSF は活動を展開するにあたり、医療・人道援助活動の尊重という最低限の安全保障の交渉をしてきた。しかし、その交渉相手が、直接的あるいは間接的に MSF スタッフに対する暴力に関与することもあった。主にソマリア中南部で起きていることだが、その地域に限った事ではない。こうした行動や環境を容認することによって、何十万人ものソマリア人を人道援助から締め出すことになっている、と MSF は指摘する。

比類なき高リスク

MSF は、22 年間にわたる活動の中で、武装集団や関係当局の各陣営と交渉を重ねてきた。圧倒的な人道援助ニーズを前に、MSF、特にソマリア人スタッフは、他に例を見ないほどのリスクを負い、MSF が活動規範とする独立・不偏の原則について大きく妥協を強いられながらも、活動を継続してきた。

首都モガディシオでは、2011 年 12 月、スタッフ 2 人が残酷に殺害される事件が発生したが、有罪となった殺人犯は早期釈放となった。また、ケニアのダダーブ難民キャンプから乱暴に拉致されたスタッフ 2 人は、ソマリア中南部で 21 ヶ月拘束された後、先月ようやく解放された。この 2 件は、一連の暴挙の最新の事例に過ぎない。1991 年以来、計 16 人の MSF のスタッフが殺害されており、スタッフ、救急搬送車、医療施設への攻撃は数十回に上る。

MSF インターナショナル会長、ウンニ・カルナカラ医師は、「人道援助活動従事者を殺害、攻撃、拉致することで、武装集団および彼らを容認する地元指導者層は、無数のソマリア人の運命を決定付けたこととなります。現在のこの国の状況下では、我々のできることに對してスタッフが背負うリスクや妥協が大きすぎるため撤退を決めたのです」と語る。

スタッフの殺害、拉致、暴力被害を受け、ソマリアで MSF は武装警備員の導入という例外措置を取らざるを得なかった。これは他のどの国でも行っていないことだ。また、活動地域のニーズを独自に評価し対応するという MSF の原則にも厳しい制約が課されたが、それも受け入れざるを得なかった。

最低限の安全保障得られず

人道援助活動を展開するためには、医療人道援助活動の価値に対する最低限の認識、すなわち紛争当事者や地域社会による医療援助の受け入れ、ならびに独立・不偏の活動原則の尊重が求められる。さらに、各陣営が合意に従い、患者とスタッフに最低限の保護を提供する

能力と意志を示す必要がある。しかし、この共通認識を紛争地で維持するのは困難であり、現在のソマリアでは消滅している。

「最終的には、ソマリアの人びとが最も高い犠牲を払うことになるでしょう。ソマリア人の多くは、紛争や飢餓のない状態を知らずに育ちました。ただでさえ、人びとの手が届く援助は必要な量よりはるかに少ないのですが、人道援助を標的とした武装集団の襲撃や、それを容認する地元指導者層の行動が、わずかに残されていた医療を受ける機会を人びとから奪い去ってしまったのです。」とカルナカラ医師は語る。

MSF は、首都モガディシオ、首都近郊のアフゲーエ、デイニール、バラド、ディンソール、ガルカイヨ、ジリブ、ジョハール、キスマヨ、マレレ、ブラオなど、ソマリア全土で展開していた医療援助活動を終了し、撤退する。これまで 1500 人余りのスタッフが様々な活動に従事し、無償で一次医療、栄養治療、産科医療、外科治療、感染症対策、集団予防接種、水や救援物資などを提供してきた。2012 年の活動実績は、診療 62 万 4000 件以上、入院治療 4 万 1100 人、子どもを対象とした栄養治療 3 万 90 人、予防接種 5 万 8620 人、分娩 7300 件であった。

22 年間にわたる活動を通して、MSF はソマリアの地におけるニーズの高さを痛感している。MSF は、医療・人道援助を通じてこの膨大なニーズに対応すべく引き続き尽力していく一方で、ソマリアの各陣営が人道援助を円滑にする意志と能力を行動で示し、ソマリアの人びとに命がけで援助を届けている人道援助従事者の安全を尊重するよう求めていく。

以上

本件に関するお問い合わせ先:

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当: 舘 俊平(たち・しゅんぺい)
TEL: 03-5286-6141 / 090-5759-1983 FAX: 03-5286-6124
E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>